

第 132 回技術士包装物流会関西支部研究会議事録

平成 29 年 2 月 13 日
関西支部長 高垣俊壽
作 成 真野仁孝

開催日時：平成 29 年 2 月 9 日（木）

《研究会》18:00~19:20 《懇親会》19:30~20:30

開催場所：大阪府門真市 パナソニック企業年金基金「松心会館」

《研究会》2F 研修室 《懇親会》1F 大広間

出席者： 合計 32 名

◆研究会

- ・研究会の前に、高垣新支部長より新任のご挨拶並びに本部定期総会・活動概要の説明があった。その後、新入会の津沢様と再入会の松永様、及び塙新理事から自己紹介して頂いた。

◆講演会：

演題：「たかがピロー、されどピロー」

講師：一岡幹朗 氏：大森機械工業株式会社 執行役員 営業本部 大阪支店 支店長（当会会員）

1. 今回の講演の概要

- ・講師は大日本印刷(株)関西包装開発部部長をされていたが、縁あって 1 年前に大森機械工業(株)の現職に就かれた。
- ・それまでも、会社対会社との付き合いはあったが、入社される前には分からなかった当社の「ピロー包装への拘り」を、ピロー包装機の最新技術を交えながらお話し頂いた。

2. 大森機械工業(株)概要

- ・大森機械工業(株)は 1948 年創業。1957 年に「魚肉ソーセージ」等で用いられている、金属クリップ(充填包装クリップ)装着を発明し、包装機械の分野に参入した。現在は日本の包装機械企業では上位 5 社に数えられるまでとなった。
- ・グローバル化を強く推進しており、特に中国とのビジネスはお互いの信頼関係を元に強固なものとなっている。
- ・50 年以上赤字なしで業績を伸ばしてきており、特に営業志向の現社長が就任されてから社風転換が顕著で、売上高を大幅に伸ばしている。
- ・売り上げの半数以上を横ピロー包装機が占めていることから、「ピロー包装機への拘り」が感じられる。

3. 大森機械工業(株)のピロー包装機の特長

- ・最大の特長は装置ベースが鋳物製であるため、堅牢で、歪まない、振動しないこと。当社営業部の方は常に「コイン」を持参し、稼働時に装置上に立てた「コイン」が倒れないことをお客様に実証されること。
- ・また、溝カム駆動による BX (ボックスモーション) トップシーラーであるため、シール時間が長いと共に、シール時のねじれやブレが無く、振動が少ないと。
- ・前述のように鋳物をベースにしているため、「壊れにくく」30 年以上耐久可能である。

4. ピロー包装機の機能と方式

- ・制御方式としてメカ式とサーボ式があり、以前はメカ式がほとんどであったが、現在はサーボ式が主流となっている。それにより、構造がシンプルになり、メンテナンス性が向上した。最大 7 サーボを搭載した装置がある。
- ・トップシール部が回転式と BX (ボックスモーション) 式があり、後者の方が密封包装に優れていると共にガス充填や脱炭素剤投入包装に適している。
- ・密封性を求める場合のヒートシール条件は、温度を抑え気味に、圧力を高め、できればゆっくりとすることが必要である。そのため、包装機は頑丈であることが求められる。
- ・トップシールをシールする方法として、ヒートシールの他に超音波シールもあるが、超音波シールの方がシール幅が短くなるため包材のコストダウンにも繋がる。

5. いろいろなピロー包装機

- ・1 台で 2 役する「ツインピロー包装機」の他、「医薬品専用ピロー機」、「超高速ボックスモーションピロー包装機」などのご紹介があった。
- ・また、内容物のかみ込み防止を目的とした、世界初となる包装機組み込み型センサーを搭載した「軟 X 線位置づけ検査装置」のご紹介もあった。

最後に、発表後において活発な質疑応答があり、ピロー包装機及びピロー包装方式についてより深い理解が得られた。

◆懇親会：

2月9日（木）19:30～20:30 出席者：31名 松心会館 大広間
川崎支部相談役の乾杯の音頭で開会し、平田会員の中締めで閉会した。

◆第133回研究会予定

2017年4月12日（水）：松心会館 2F「3」
講師として藪会員より「情報セキュリティマネジメントシステムについて」お話を頂きます。
尚、講演後は懇親会を開催いたします。



高垣新支部長挨拶



講演される一岡様



左から塙新支部理事・津沢様
再入会の松永様

受講風景→



乾杯の川崎様
懇親会風景→



中締めの平田様